

基礎学力コンテスト 2019夏 小6理科 出題範囲



〔テスト範囲になる内容〕 ★気になる言葉やわかりにくいものは、学校の教科書でも調べてみましょう。

植物の成長…光合成のしくみ・植物が水を吸い上げる様子など

植物の体のつくりとはたらき…根・くき・葉などのつくりとそれぞれのはたらき

ものの燃え方…ものに火がついて燃える様子

実験器具…試験管・ビーカー・アルコールランプ・フラスコ

言葉	言葉の説明
光合成	植物が光を浴びることで養分を作り出すはたらき。二酸化炭素と水から、でんぷんなどの養分と酸素を作る。
[植物] 酸素	光合成のときにつくられる気体。生き物が呼吸のときからだに取り入れる。
二酸化炭素	空気中に約0.03%ふくまれる気体。石灰水を白くにごらせる。水にとけると炭酸水になる。
でんぷん	光合成でつくられる養分。生き物が生きるために必要なエネルギーをふくむ。種子やいもに多くふくまれる。
蒸散	気こうから、水の水蒸気に変えて出すはたらき。体温を下げるために行う。
道管	根から吸収した水や水にとけた養分(肥料)を通す管。くきの内側、葉の表側を通る。
師管	葉で作った養分を通す管。くきの外側、葉の裏側を通る。
維管束 (いかんそく)	植物の、水や水にとけた養分を通す管のあつまり。道管と師管を合わせた呼び方。
葉脈	葉の部分にある維管束のこと。葉の表側に道管、裏側に師管が通る。
気こう	植物のからだの表面にたくさんある穴。気体のやり取り(出し入れ)を行う。葉の裏に多くある。
ヨウ素液	でんぷんに反応する液体。反応すると青むらさき色に変化する。
石灰水	二酸化炭素に反応する液体。反応すると白くにごる。
エタノール	消毒(しょうどく)に使われるアルコールの一種。植物の実験では、葉のだっ色(色をぬく)をするときに使う。
[燃え方] 酸素	物が燃えるのに必要な気体。この気体が少なくなると、ものが燃えなくなる。空気中の約21%をしめる。
ちっ素	空気の約78%をしめる気体。
二酸化マンガン	過酸化水素水(オキシドール)を加えると酸素が発生する。
過酸化水素水	二酸化マンガンに加えると酸素が発生する。うすい過酸化水素水をオキシドールとも呼ぶ。
気体検知管	空気に気体がどれくらい含まれているかを検査する道具。酸素や二酸化炭素を検査できる。
ろうそく	ろうでできた、火をつけて使う道具。火をつけると、酸素を使い、二酸化炭素や水蒸気が発生する。
スチールウール	糸のように細くした鉄を丸めたもの。燃えるときに酸素を使うが、二酸化炭素や水蒸気は発生しない。

実験器具

試験管	ビーカー	アルコールランプ	丸底フラスコ	三角フラスコ
				
科学実験のときに、薬品を入れて使う。液体をまぜるときには、口の方をもって底を回すようにふる。	科学実験のときに、薬品を入れるのに使う。目盛りは真横から見る。	科学実験のときに、火をつけて使う道具。試験管やビーカーに入れた薬品をあたためるのに使う。	科学実験のときに、薬品を入れるのに使う。底が丸いので、火で加熱するのに適している。	科学実験のときに、薬品を入れるのに使う。底が平らなので、置いて使うのに適している。